



令和6年度日本大学スポーツ科学研究所公開講座

オリンピック・パラリンピックの精神を

地域に活かすために



日時：2024年12月21日（土）

10：30～12：00

参加費無料／申込不要

会場：日本大学三軒茶屋キャンパス

1501教室（1号館5階）

東京都世田谷区下馬3丁目34-1

東急田園都市線・東急世田谷線「三軒茶屋」駅より徒歩約10分

東急東横線「祐天寺」駅から東急バスより10分「日大前」下車すぐ

●オリンピックボクシングとプロボクシングについて●

ー歴史と組織運営及び多様性の意味ー

梅下 新介（日本大学スポーツ科学部 専任講師）

ボクシングには、プロフェッショナルボクシングとオリンピックボクシングがあります。2つのボクシングは、グローブの大きさ、ラウンドの数、採点方法などの「ルール面」だけでなく、例えばチャンスの探し合いであったり、フェイントを用いた相手との駆け引きであったりといった「戦術面」でも異なるものがあります。この講座では、2つのボクシングそれぞれの魅力について、自分自身の経験も踏まえながら、紹介いたします。

●パラリンピックレガシーの波及効果を考える●

近藤 克之（日本大学スポーツ科学部 准教授）

2024年9月8日に閉幕したパリパラリンピックは、史上2番目に多いとされる250万枚以上のチケットセールスを記録し、実際に演者が参加したパラ陸上の競技会場である「スタッド・ド・フランス」には連日満席に近い観客が詰めかけました。これらは非日常的な光景ではありますが、日常生活に戻った時、私たちの生活に影響が及んでいることはあるのでしょうか。この講座では、パラリンピックが単なる一時的な消費財に留まらないためには、どのような観点が必要なのか、議論したいと思います。

各講義の後、質疑応答の時間を設けます

進行：原 怜来

（日本大学スポーツ科学部 准教授）



お問合せ：管理マネジメント課

rms.kenkyu@nihon-u.ac.jp